

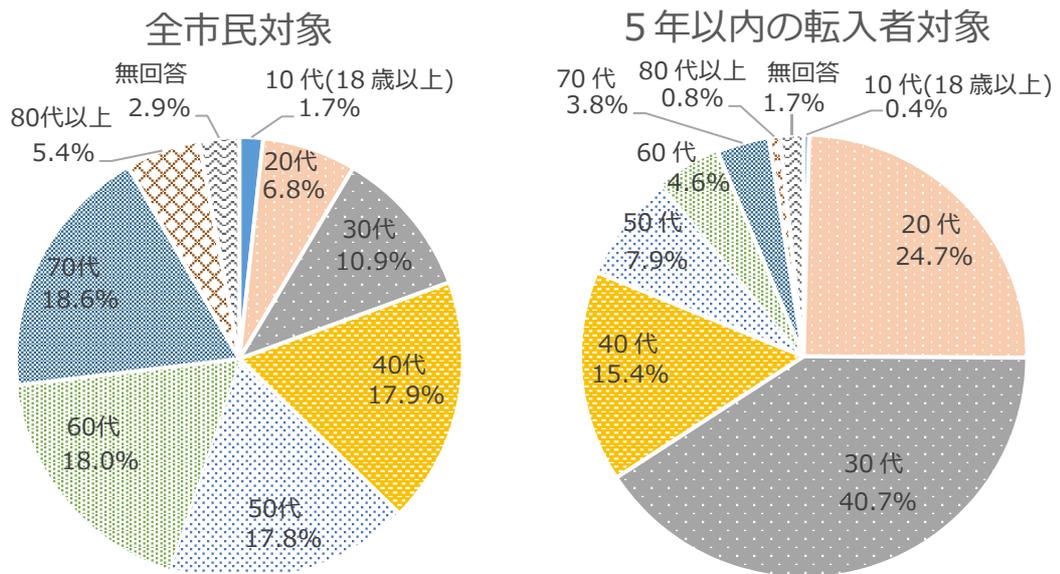
まちづくり市民意識調査結果（概要）

(1) 調査概要

(1) 対象	18歳以上の市民5,000人（住民基本台帳からの無作為抽出） ※内2,000人は過去5年以内の転入者を抽出
(2) 方法	郵送調査
(3) 期間	発送・回収：2019年6～7月
(4) 回収結果	回答者数3,265人（回収率65.3%） ①全市民対象（3,000人） 2,097人（回収率：69.9%） ②5年以内の転入者対象（2,000人） 1,168人（回収率58.4%）
(5) 備考	前回の調査：2014年度（2015年2～3月）・回収率52.8%

(2) 主な質問項目の回答状況

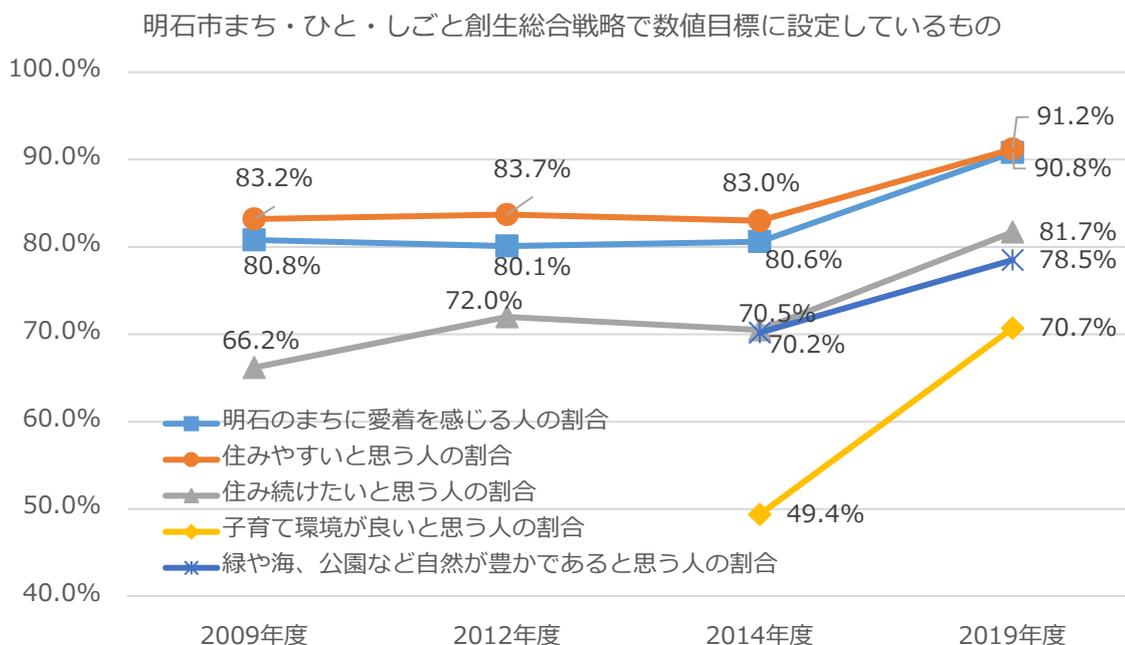
① 年齢構成



年代	全市民対象 (3,000人)		5年以内の転入者対象 (2,000人)		住基上の 年齢構成
10代(18歳以上)	36	1.7%	5	0.4%	2.3%
20代	142	6.8%	288	24.7%	12.2%
30代	228	10.9%	475	40.7%	14.8%
40代	375	17.9%	180	15.4%	18.1%
50代	374	17.8%	92	7.9%	15.2%
60代	377	18.0%	54	4.6%	14.2%
70代	390	18.6%	45	3.8%	14.4%
80代以上	114	5.4%	9	0.8%	8.8%
無回答	61	2.9%	20	1.7%	—
合計	2,097	100%	1,168	100%	100%

② 明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略で数値目標に設定しているもの
(全市民対象 (3,000人) の結果)

- ・数値目標をすべて達成しており、とくに「明石のまちに愛着を感じる人の割合」「住みやすいと思う人の割合」は90%以上となっています。「住みたい、住み続けたい」と思われる「選ばれるまち」の実現に向けた取組の効果が表れているものと考えられます。
- ・子育て環境が良いと思う人の割合が前回よりも20ポイント以上も上昇しており、その他の項目においても、10ポイント程度上昇しています。



項目	2009年度	2012年度	2014年度	2019年度	目標値 (2019)
明石のまちに愛着を感じる人の割合	80.8%	80.1%	80.6%	90.8% ↑	85.0%
住みやすいと思う人の割合	83.2%	83.7%	83.0%	91.2% ↑	88.0%
住み続けたいと思う人の割合	66.2%	72.0%	70.5%	81.7% ↑	75.0%
子育て環境が良いと思う人の割合	—	—	49.4%	70.7% ↑	55.0%
緑や海、公園など自然が豊かであると思う人の割合	—	—	70.2%	78.5% ↑	75.0%

③ 各分野の施策

◆ 良くなった分野

- ・「こどもを核としたまちづくり」の推進により、「子育て環境の充実」が高く評価されているものと考えられます。
- ・総合戦略に掲げる新たなまちの魅力として「本のある文化のまちづくり」の取組が評価されているものと考えられます。
- ・明石駅前の開発などにより、良好な都市環境の整備が高く評価されているものと考えられます。

順位	全市民対象 (3,000人)	5年以内の転入者対象 (2,000人)
1位	子育て環境の充実 (59.9%) [前回1位: 26.8%]	子育て環境の充実 (72.1%)
2位	本のまちの推進 (18.8%) [前回一位: -%]	本のまちの推進 (20.2%)
3位	良好な都市環境の整備 (14.1%) [前回8位: 10.3%]	良好な都市環境の整備 (17.6%)
4位	交通体系の構築 (13.2%) [前回4位: 14.9%]	交通体系の構築 (12.4%)
5位	地域福祉の推進 (12.5%) [前回3位: 16.3%]	観光の振興 (11.6%)

◆ 今後推進すべき分野

- ・全市民対象と5年以内の転入者対象の結果を比較すると2位～4位については、概ね同様の結果となりましたが、1位と5位については年齢構成の割合が反映された結果となっているものと考えられます。

順位	全市民対象 (3,000人)	5年以内の転入者対象 (2,000人)
1位	高齢者支援の充実 (35.8%) [前回1位: 37.0%]	子育て環境の充実 (27.0%)
2位	交通体系の構築 (22.7%) [前回4位: 15.5%]	交通体系の構築 (25.4%)
3位	地域医療の充実 (18.5%) [前回3位: 16.9%]	地域医療の充実 (18.0%)
4位	防災・生活安全対策の推進 (17.0%) [前回6位: 12.8%]	防災・生活安全対策の推進 (17.9%)
5位	就労・勤労者の支援 (16.0%) [前回5位: 15.0%]	学校教育の充実 (17.5%)

④ 転入者の状況 (5年以内の転入者対象 (2,000人) の結果)

- ・転入するきっかけとしては、結婚や就職・転職・転勤などの新たな生活を始める機会において、多くなっています。
- ・住宅環境としては、交通の利便性や日常の買い物が便利であるといった生活上の利便性に加えて、子育て支援施策の充実が評価されているものと考えられます。

順位	転入するきっかけ	転入先を決める際に考慮した住宅環境
1位	結婚のため (23.3%)	電車やバス、道路など交通の利便性が高い (43.0%)
2位	就職・転職・転勤のため (22.9%)	日常の買い物が便利である (27.9%)
3位	家族や親族と同居・近居するため (13.1%)	勤務地や学校に近い (18.6%)
4位	より良い住宅を求めて (9.1%)	親や子供の家に近い (18.4%)
5位	より良い周辺環境を求めて (6.3%)	子育て支援に関する施策が充実している (18.2%)